令和5年度第2回徳島県南部地域政策総合会議 会議録

1　開催日時

令和6年3月14日（木）午後2時から午後4時まで

2　会場

徳島県南部総合県民局 阿南庁舎 大会議室

3　出席者

(1) 政策総合会議委員

①　地域住民代表委員　14名（5名欠席）

青木委員　岩崎委員　尾崎委員　兼松委員　岸委員　繁友委員　靏委員　西原委員

橋本委員　濵﨑委員　林委員　平井委員　町田委員　宮﨑委員

②　県委員　1名

坂東南部総合県民局長

(2) 管内市町長、副町長　4名

岩佐阿南市長　橋本那賀町長　枡富牟岐町長　岩佐海陽町行革政策課主幹

4　会議次第

(1) 開会

(2) 議事

徳島県南部圏域振興計画（案）について

(3) 閉会

5　配付資料

- 徳島県南部地域政策総合会議設置要綱
- 徳島県南部地域政策総合会議委員名簿
- 令和5年度第2回徳島県南部地域政策総合会議配席図
- 資料1　「徳島県南部圏域振興計画」（案）変更状況について
- 資料2　「徳島県南部圏域振興計画」（案）における委員提言
- 資料3　オープンとくしま・パブリックコメントの意見
- 資料4　「徳島県南部圏域振興計画」（案）
- 参 考　徳島新未来創生総合計画

6　議事概要

［司会］
　ただ今から、令和5年度第1回徳島県南部地域政策総合会議を開会いたします。
本日は、14名の地域住民代表委員の皆様及び管内市町の皆様に御出席いただいております。今後の議事進行は会議設置要綱第5条第2項の規定により、坂東南部総合県民局長が行います。

［局長］
　南部総合県民局長の坂東でございます。本日はお忙しい中、この会議へ御出席いただきまして、誠にありがとうございます。今日はよろしくお願いいたします。第１回の会議の際に委員の皆様方、管内の各市町の皆様方から、南部圏域振興計画の素案の内容、それから、圏域の振興施策につきまして、種々御意見・御提言をいただいております。大変活発な意見交換を行うことができました。時間が少し短くて、まだまだ言い足りなかった方もたくさんいらっしゃると思います。その点、お詫び申し上げます。ただ活発な意見交換をさせていただきまして、今回はその内容を反映をさせ、またパブリックコメントをさせていただきまして、その内容等についても種々盛り込ませていただいております。今日の第2回の会議では皆様方からいただきました御意見・御提言、こちらをしっかり受け止めまして、可能な限り計画に盛り込んだ形で修正を行いました。さらに、今日の会議の中で足りないところ等、ご教示いただけましたらと思っております。この後、事務局から「徳島県南部圏域振興計画」(案)、につきまして、計画の修正点等を主に御説明させていただきまして、意見交換を行いたいと考えております。その後、本日ご出席の管内の各市町の皆様方からもお言葉をいただきまして、最後に、副知事から全体を通しての意見をいただくという流れでいきたいと考えております。どうぞよろしくお願いします。
　それでは議事に入らせていただきます「徳島県南部圏域振興計画」（案）につきまして、前回、御提示させていただきました計画からの変更点などについて、事務局から説明をお願いします。

［事務局］
　(資料1～4により説明)

［局長］
　はい、ありがとうございました。では、会員の皆様方から御意見をいただきたいと思いますけれども、本日の会議は16時を終了予定としておりますので、15時40分をめどに多くの皆様方から御意見いただきたいと考えております。限られた時間ではございますが、できるだけたくさんの方から御意見をいただきたいと思いますので、御協力のほどよろしくお願いをいたします。それでは、どなたからでも結構でございますので、御意見等、お願いいたします。
　では、A委員お願いします。

［A委員］
　はい、Aでございます。よろしくお願いいたします。私どもは、前回の会議の後、DWAT、徳島県災害派遣チームとして1月31日から2月6日まで1週間行かせていただきました。今日の計画案・提言・パブリックコメント等を見ても、やはり能登半島地震における災害被害の状況、また県南部圏域における、防災対策・災害対策というのが、やっぱりいの一番に来てるという印象を特に持っております。その中でも、先ほど事務局の御説明にもありました資料1の「安心度ＵＰ」にある「(2) 自然災害を

迎え撃つ県土の強靭化」に記載された特にソフト面の防災士の資格の取得や徳島県南部自動車や阿南安芸自動車の整備の促進、また、国道195号等々の文言を入れていただいたことは非常に心強いかなと思っております。ハード面に関しては令和7年度開通予定の阿南インター等、「命の道」というのは非常に重要であり、物資等の輸送等の観点、それと安心安全な避難所運営といったこの観点のハード面の整備は避けては通れないであろうと考えてございます。特に、今回「1.5次避難所」という、1次避難所、2次避難所というのは、皆さん御理解いただいていると思いますが、1次避難所から要配慮者等を一時的に集めて、そして2次避難所、ホテルとか旅館へ移動しましょうよといったラウンドアセスメントをさせていただきました。余震などの危険がまだあるかもしれないところから、内地の危険が少ない所に集めるというこの考え方は、防災学上も必要であろうかと考えております。つまり、南部圏域で沿岸部等にある施設等がやられたらどうしても内地ですね、内地に対してのハード面の整備というのは、今まで僕も勉強不足で沿岸部等をまず一番にという観点で論じたこともあるんですけど、そうじゃなくて、沿岸部等から内地への後方支援のやり方というのが、やっぱり今後は必要だろうなと、現地に行って思いました。

それともう一点はどの審議会でも言っておりますが、やはり冷暖房は絶対にいる。いるものはいると言います。電源がどうだかっていう議論もあると思いますが、それは常設型じゃなくて、充電器、バッテリー等でする、もう簡易型でも構いません。もちろん常設型だと予算がいるのは分かっています。そうじゃなくて移動型ですればどこでも利用できる。なおかつ、ソフト面で防災士の皆さん等に、訓練でやってもらえばいいんですよ。そういった形でハードとソフトの両輪を回していただければと心から切に願っておりますし、委員の皆さんも多分全員一致で、この意見に対しては相違はないだろうというふうに思っておりますので、ここはもう強く強く本当に強く言っておきます。

それと最後に、やはり防災に関しましては、実は3月6日に阿南高専の多田教授をはじめ、市長や局長さんも来ていただいたんですけれども、やはり事前復興というキーワードを元に阿南市民と南部圏域の防災意識を高めようという機運が今高まってございます。ぜひともそういったところに対しても支援をする。また、行政と官民が一体となって、しっかりとみんなでやっていかないといけないんです。防災士だけやればいいとか行政がやればいいという観点ではダメなんです。ここにお集まりの皆さん一人一人が被災者になるおそれもある。リーダーにならないといけないってこともある。南部圏域の皆さんと一緒にしっかりと機運を醸成していくこと。

それともう一点は、防災士の会等の防災士資格を取得した後のステップアップ、これについてはネットワークを作ってくれるというふうに県から聞いております。阿南防災士の会、既に那賀町も、私は「那賀町防災士の会」のアドバイザーでございますので、那賀町等とも連携をしながら広域防災についてネットワーク構築に寄与していただければと思ってます。先般のニュースでは、小松島市でも防災士の会が立ち上がったという報道を拝見いたしましたので、ぜひとも人材育成、また機運醸成のために、どうぞ官民共同でしっかりとやっていっていただければと思っております。以上です。

［局長］

はい、ありがとうございました。

［地域創生防災部］

南部総合県民局地域創生防災部長の小津と申します。どうぞよろしくお願いします。A委員さん、非常に熱いお言葉をいただきましてありがとうございます。能動半島地震にも支援に行っていただき、現場を見て来られたところからの御意見というところで、我々も重く受け止めておるところでございます。能登半島地震を受けて、県といたしましては道路啓開・停電・断水・通信途絶、こういったと

ころをまず問題点と掲げまして、現在、関係者によるワーキンググループを立ち上げ、既に2回目のワーキングが始まりまして、議論が進んでおるところでございます。また、県庁内では各所属・各部局で課題の洗い出しとそれに対する取組について、これは内部の会議ではございますが、合わせて検討を進めております。そういった中で、計画の中では、まず、防災士の資格取得に加え、防災士の技能の向上・活用､それから防災人材ネットワークの強化というところを書かせていただいております。まず、自助・共助・公助という形がございますが、公助についてはできるところが限られていると思っております。共助、それから自助の部分について、地域全体の防災力をどうやって上げていくかっていうところが大きな課題になると思っておりますし、そこをどう作っていくかっていうところが今後のポイントでないかなと考えております。地元の防災士の会の皆様や自治体の皆様、県も一緒になってしっかり取り組んで参りますので、引き続きの御支援をどうぞよろしくお願いします。

[局長]
　はい、ありがとうございました。能登半島があって非常に防災に関心が向いていますので、こういう機会を捉えて一歩でも二歩でも進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
　では、B委員お願いします。

[B委員]
　よろしくお願いします。今、A委員の方から危機管理や自然災害のところの話があったので、そこの部分に関して一つ意見をお伝えさせていただきます。有事の際に陸路もそうなんですけれども、やはり海外の事例などを見てみると、やはり空路。道が塞がって物資が届けられない、その他、陸路での輸送に限界がある際にやはり空路の設備管理というのが必要だという意見をすごく目に受けます。特に県南地域でいうとやはり陸路の方がまだまだ整備が足りない状態ではありますので、空路に関するところも視野に入れてはどうかなと思います。あと、先ほども出ていた電源だったりとか空調設備とかっていう話でいうと、これだけ自然環境のいいエリアなので、これは災害だけのことではないんですけれども、もっと再生可能エネルギーを使ってはどうかなと思います。例えば、私の友人のところでは、災害対策だけではなくて常時使っている電源を、例えば廃油を使って、天ぷら油とか、レストラン、給食、いろんなところから出る廃油を使ってディーゼルエンジンを回すことによって、廃油を使った電力を蓄電という形で利用していたりとか。あとは、特に県南地域の川沿いで言うと水源、川が豊富にあって水量がいっぱいあるので。岐阜県のとある街ですと初期投資として2億4,000万円ぐらいの投資で約100世帯前後が普通に一般家庭で電力を使える水力発電、もう技術はあります。しかもそこを住民たちが使うだけではなく、なおかつ年間2,400万円の売電もできていると。これって、徳島県南部の各集落に入れてもいいぐらいじゃないかなって。大きく環境を破壊して風力発電・太陽光発電をやろうという話ではなくて、あるものをもっと活かして自然に負荷をかけない、再生エネルギーを持っておくというのは何か有事の時にすごく役立つのではないかと。それができる環境が僕はこの県南には揃っていると思います。いかがでしょうか？

[局長]
　これは、何か事務局からありますか？

[地域創生防災部]
　地域創生防災部の小津でございます。まず防災に関連して、空路も視野に入れるべきだとのお話だったと思います。特に海部3町においては国道55号が１本しかなく、仮に津波被害が起こった場合、

道路啓開ができるまで外からどんどん応援が入ってくるというのは少し想定しづらいと思っております。なので、まず地域で残った資源といいますか、これは人的資源・物的資源、そういったものをどうやって使っていくか、どう準備しておくかというところが一番重要だと思っております。ただ、道路が開くまでいつまでも待つというわけではございませんで、必要なものは自衛隊等の協力もいただきながらになろうかと思いますが、空路のことも考えていく必要があると思いますので、まず自分の地域で生き延びるといいますか、まず、自分の地域でやれること。それから空路というのは必然だということでございますので、そういった部分も含めて、今後考えて参りたいと思っています。

あと再生可能エネルギーの話でございます。太陽光発電もしかりでございますが、廃油による発電とか、それから省水力発電とか様々なツールが出てきております。どの地域にどういったものが適するのかっていうところの判断も必要だと思いますので、また地域の皆さんともそういった御提言・御発言を参考にしながら、地域地域で何が適するのかをしっかり見極めていく必要があると思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

[局長]

はい、ありがとうございます。アクセス路っていうのは、能登でも課題として挙げられてますが、我々県南は一本道ということですので、これについて考えていきたいなと思ってますし、エネルギーに関しては、これから人口が減る中で大規模投資っていうのはなかなか難しい部分がありますので、自立分散型の再生可能エネルギーをこの地域に、逆にいったら強みを活かしていく、この地域にあるものをどう活かしていくかということですので、県民局として皆様方と一緒になりながら考えていきたいと思いますので、御支援をよろしくお願いいたします。

それでは、C委員さんよろしくお願いします。

[C委員]

すみません、失礼いたします。皆さんの意見を読ませていただきまして、その中でやはり観光資源の重大さみたいなものを皆さんおっしゃってたみたいだったんですけど、関西万博があって万博に来た人たちを呼び込もうとの意見も出ていたようですが、一番問題なのはやはり交通網だと思います。大阪から阿南まで4時間近くかかるというのは大変なことです。私は仙台の人間ですが、飛行場から高速バスに乗って阿南まで帰ってくるのにとても時間がかかります。4時間ではきかないように思う時があって、空路の問題も出たんですけれども、昔は大阪から徳島までの便があったのですが、今は無くなってるし、そういうことも考慮に入れていただいたらいいかなと思います。外国の方ばかり呼び込むのではなくて、国内の人間についても呼び込むことを考えていただけたらと思います。徳島には資源として本当に魅力あるものがたくさんあります。例えば、竹林にしたって阿南の竹林ってすごいんです。京都の竹って短いんですけど、徳島、阿南の竹はすごい高いんです。その間から出てくる太陽の光なんていうのは本当に魅力的なものだと思います。地域に埋もれているものがたくさんあるように思います。

それともう一つ。能登半島の地震が起きまして一番問題になったのが、やはりライフラインでした。その中で、水の問題で3月11日の徳島新聞に、地域の皆さんに井戸水を提供することを4市町村が取り組んでいる、といった記事がありましたが、阿南にはミカン畑にたくさんの使ってない井戸があります。その井戸をどんな時にでも使えるように水質検査を一度していただいたら、使えるのではないかなと思うんです。緊急の時にね。そういうふうな眠っているものをまずは活用する方法を考えたらどうかなと思いながら、3月11日の新聞を読ませていただきました。ぜひ検討していただけたら助かります。どんなに時代が進歩したところで水は必要だと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

失礼しました。

[局長]
　はい、ありがとうございます。では、お願いします。

[地域創生防災部]
　まず、大阪から遠いといったお話だったと思います。私ども県南部においては山・川・海、三拍子そろった自然豊かなアクティビティ、それから海鮮料理やジビエといったご当地グルメ、地域で受け継ぐ伝統文化・伝統芸能など、県南ならでは地域ならではの多くの魅力を有していると考えております。一方、C委員おっしゃったように、大阪からここまで来ようとすると時間的にかかるということは現時点では仕方がないことだと思ってます。そういった中で、高速道路の南進を進めるとかJRのダイヤ改正を進めるとか、使い勝手のいいように整備をしつつ、今ある既存のものをどうやって使いやすくしていくかっていうような検討をしながら進めておるところでございます。私ども地域創生で観光の部門を持っておりますが、まずは地域の魅力をしっかり高めていくことが人を呼び込むための一番の施策だと思っておりますので、地域の魅力の掘り起こしとか磨き上げ、そういったことも計画の中に位置付けて取り組んで参りますので、ぜひとも御協力をお願いしたいと思います。
　あと、ライフライン。特に井戸水の話がございました。私も新聞読みまして、実は4市町はそれを利用するルールがありますよという中で、私の故郷といいますか、実はうちの家の井戸もそれに登録されておりまして、池に水を入れております。それで井戸の場所を町として把握していると。井戸水なので水道事業者が行う水道としては使えません。ただ、水質検査をしながら家庭で使うには使えるという状況でございますので、災害時には役に立つ隠れたツールなんだろうなと。C委員のおっしゃる通りだと思いますので、そういった基礎データをしっかり集めておけば、行政、いわゆる水道事業者として「これは大丈夫ですよ。」とまでは言えなくても、水が出る場所があるという情報があるって事はすごい大事なことだと思います。みかん畑にいっぱい井戸があるんだというのは、貴重な情報だと思いますので、市町と一緒になってそういった情報をどう集めるか検討し、地域の防災力を少しでも高めて参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

[局長]
　はい、ありがとうございました。水道事業者としてはなかなか水質の継続的なものが難しいって話なので、使い方はたくさんあると思いますし注水としても十分使えます。これから水道ネットワークっていうのを維持できるのかって話がありますので、井戸というふうな形のローテクなのかもしれませんけど、昔からあるものは丈夫なものが多いですから、そういうものの活用を考えていきたいと思います。どうもありがとうございます。
　では、D委員お願いします。

[D委員]
　いつも大変お世話になっております。組織の中に6つの部会と5つの委員会がございまして、今日は建設部会、それと社会インフラ整備委員会というのがございますけど、そちらの方から県へ提言としたいと考えております。まず建設部会からの方のお願いということで、これは阿南市の方にも先般、御要望を出ささせていただいておりますけれども、阿南市役所前の5差路交差点のラウンドアバウト、環状交差点への変更が可能かどうかの調査依頼ということでございます。現在、阿南市庁舎前の5差路交差点は信号が長く、朝夕のラッシュ時には市内で最も渋滞する交差点の一つであります。一方、

車の少ない時間帯は信号で、長時間待たされるものの交差点内を通過する車が一台もない時もございます。その交差点に面して阿波銀行が新築され、向かいにある牛岐城趾公園も阿南市が整備し、阿南市の顔となっている場所でございます。阿南市でもっとも不便な5差路交差点を全国40都道府県155カ所で採用設置されているラウンドアバウト環状交差点に変更することを提案したいと思います。阿南市からは歩行者や自転車での横断が多い場所での設置は難しいと伺っておりますが、南部総合県民局様にも調査研究をお願いしたいと存じます。

もう一点が社会インフラ整備委員会からのお願いでございます。重要港湾でございます橘港のカーボンニュートラルへの取組強化。その中の一つといたしまして、徳島南部自動車道。また、高規格道路との連携、阿南安芸高規格道路の内原インターとのスムーズな連結を進め、輸送の効率化をお考えいただいたらと思います。

最後に、橘港の港湾脱炭素化推進計画の策定に向けて事業の方を進めていただけたらと思います。以上でございます。

[局長]

はい、ありがとうございます。では、お願いします。

[県土整備部]

県土整備部長の川口でございます。D委員の方から阿南市役所前の交差点のラウンドアバウト化について御提言ををいただきました。この交差点は阿南市役所前の県道の富岡港線と市道である富岡横見線、それから富岡中央線で構成されるということになってございます。先ほどD委員の方からもお話がありましたけれども、先月、阿南商工会議所さんの方から阿南市の方にも要望されたということにつきましては､阿南市さんからも連絡を受けて情報共有させていただいているところでございます。先ほどD委員の方からもお話ありましたように、ラウンドアバウト化は一般的に交差部の流入、通過速度の低下による安全性の向上や信号待ちの渋滞解消などのメリットが言われております。一方、こちらも阿南市さんの方からもお話があったと思いますが、想定より交通量が多くなる。また、横断歩行者の交通量が多い、こうした場合には逆に渋滞が発生したり、歩行者への安全性への影響が出ること、交通ルールが分かりにくい、また、障害者の横断が難しくなる等、課題・デメリットが出てくるというものでございます。こうしたことから、ラウンドアバウト化につきましては当該交差点におきましても様々な課題があるのかなというふうに考えております。この御意見につきましては阿南市さんの方では、まずは現在の市道、富岡横見線の改良工事を進められているということで、こちらの改良を図るということをお聞きしております。今後ともそうした中で、阿南市さんとも情報共有をしていきたいと考えてございますので、御理解・御協力を賜りたいと考えてございます。よろしくお願いいたします。

続きまして橘港についてでございます。まず阿南安芸自動車道・徳島南部自動車道、そうしたところ、県政の最重要課題ということで取組をさせていただいているところでございますけれども、桑野道路につきましては、国が令和2年度に工事着手をいたしまして長生トンネルや下大野トンネルの整備を進めているというところでございます。県におきましても一般国道195号、桑野工区におきまして、桑野道路のインターに橋梁形式により接続する道路の整備に着手しておりまして、現在用地買収を進めているところでございます。今後とも、国・市とも連携をしながら阿南安芸自動車道の整備促進、アクセス道路の進捗を図っていきたいと考えております。また、橘港の港湾脱炭素化推進につきましては、国の輸出入貨物の99.6%を扱い、Co2排出の約6割を占める企業が立地するというところでございます。こうした中で、徳島県におきましても港湾のカーボンニュートラル進捗を図るため、重

要港湾である橘港におきましても、有識者・国・地元市町・関係企業など港湾関係事業者とともに、令和5年11月に協議会を設置させていただきまして、脱炭素化推進計画の策定を進めさせていただいているところでございます。引き続き、この協議会での検討を重ねながら関係者との合意形成を図りつつ早期策定を目指して参りたいと考えておりますので、よろしくお願いします。以上でございます。

[局長]
　ありがとうございました。またいろんな進捗について情報提供、積極的にお願いします。
では続きまして皆様方御意見いかがでしょうか。
　E委員さんお願いいたします。

[E委員]
　先日、御縁がありまして丹波篠山の方に行ってきました。万博に向け、令和7年4月から「丹波篠山国際博」を実施し、ナイトコンテンツとしての花火で変わったことができないだろうかということで呼ばれておりました。実際にできるかどうかは別として、黒豆が有名なところなので、「黒豆の殻を墨にして花火ができないか。」、「能と花火を合わせられないか。」、「高校生が選曲、デザイン、プログラムするようなことができないだろうか。」等、すごく斬新なアイデアをいただきまして、大きな宿題をいただいたところでございます。目的がすごく明確で「地域にシビックプライドを醸成し、田舎の丹波篠山が地域のリーダーになりたい。」との強い意志を感じました。集まっているメンバーも、気持ちが入っていて素晴らしいなと感じました。県南に関しては、万博についてどのような形で進んでいくのか、まだ私の中では明確に理解できていないところがありまして。どういう組織で、何を目的に、どのような人に来ていただいて、将来どういうところに向かって進んでいくのか、御指導いただければありがたいなと思います。以上です。

[地域創生防災部]
　ありがとうございます。関西万博、一つの大きなきっかけだと思っております。関西万博で人が集まり、県南部までその方々をぜひ呼び込んでいきたいというところを考えております。それについてはまず、各地域に引き継がれた自然・文化・歴史・伝統産業などを観光資源としてフル活用して、持続可能な観光コンテンツの磨き上げをやっていくべきなんだろうと考えております。ただ、具体にどう進めていくのか、現時点で私も実は答えを持ち合わせておりませんが、県庁全体の取組の中でやっていくことだと思っております。まずは県南の自然・文化・伝統。そういったところをしっかりと我々自身が再認識しながら磨き上げながら、どういった取組ができるのかというところを考えていきたいと思ってございます。答えになってございませんがどうぞよろしくお願いいたします。

[局長]
　ありがとうございました。立地のハンデなのか、強みなのか、両面あると思うんですけどね。まだまだ我々も研究しないといけないところたくさんあります。いろいろお知恵もいただきながら、アプローチをしていきたいと思います。よろしくお願いします。ありがとうございました。
　ではF委員お願いします。

[F委員]
　よろしくお願いします。1月30日開催の令和5年度第1回総合会議では要支援者名簿及び、津波避難タワー整備改良についての提言に対しまして明快な対応方針等、御回答いただきありがとうございま

した。個々の課題につきましては町としっかり協議を行い、日々の暮らしの中の安全・安心に取り組んでまいります。今後とも御支援・御指導をよろしくお願いいたします。蛇足で恐縮ですが、委員皆様のところで、これから津波避難タワーの建設があるようでしたら、しっかりとした風雨対策の取れた設備として欲しいと思います。以上でございます。ありがとうございました。

[地域創生防災部]
　ありがとうございます。地域防災という観点から言いますと、地域の自主防災会や防災士の会をはじめですね。民間の組織を非常に心強く思っておりますし、そこと一緒になってやっていかないと、公助だけでは何一つできないと言っても過言ではないと思っております。個別の話はまさにこれからでございますが、いろいろ御相談をさせていただきたいと思いますし、自主防災会とか防災士の会、地域の会の中で御要望等ありましたら市町や南部総合県民局の方にもお申し付けいただけましたら、できることを考えさせていただきたいと思いますので、引き続きの連携をどうぞよろしくお願いいたします。

[局長]
　ありがとうございました。市町も含めて県民局も皆様方と一緒に頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。
　続きましてG委員さん、よろしいですか。

[G委員]
　よろしくお願いします。前回から日もあんまり空いていないということで、前回のような具体的な施策というよりも、この事前に送られてきたものを拝見させていただきまして、細かい方向性に対する具体的な取組とか、色々数字で書かれているもの、方向性だったりとか、各市町村に落とし込んでいく必要がある取組がすごくあると思うんですね。さらに市町村から地域の各団体であったり住民の方に協力していただきながら、やっていかなければならないことがほとんどだと思います。5か年計画ということであり、目標を達成するためにどういった戦略を立てて遂行していくのかっていうところがすごく難しいかなと思います。それで思ったのが、この資料3のパブリックコメントの意見にもあったんですけど、私たちはこうやってこの会に参加しているので、計画が立てられて将来の30年後・50年後のことまでこうやって議論しながら協議しながら考えてるっていうのは分かるんですけど、普段、普通に生活している町民の皆さんとか県民の皆さんだったら、なかなか目にもすることもないと思うので、ここに書いてある通り分かりづらい単語や初めて聞く言葉があったので、もっと解説が欲しいとか、どんな取組をしているのかとか、分かりやすい方がいいのかなと思います。この会の資料をどうやって各町民の皆さんまで、末端まで施策を遂行していくために落とし込んでいくのかなっていう、そういった施策もあるのかなとかちょっと気になりました。というのは、私、この中でも特に健康づくりについて保健師さんや行政の方と一緒になってお仕事させていただいておりますので、そういった部分の計画が気になって見ておりました。仕事するにあたって目標とか目的とか、同じベクトルで進めていくのが大事なので、何か施策的なものがあるのかなと気になって。もしあるならば、進めていくためにはどういう流れでやっていくのか教えて頂ければと思います。

[地域創生防災部]
　ありがとうございます。今回、この振興計画を作成するにあたりまして一つのテーマがございまして。従前作っていた計画はすごい分厚くて数値目標がたくさんあって、「これ誰が読むんだ?」というくらい分厚い冊子でした。各委員の皆さんには、それの分の審査をいただき、それのPDCAサイクルの審査もいただき、数値の上方修正をしたりなど、いろいろ御協力を賜ってきたところでございます。
　そうした中、今回一つテーマとしては、皆さんに分かりやすく読んでいただきたいという思いがございまして、従前に比べてすごくシンプルにして、シンボリックな数値目標を掲げたつもりでやっております。で、この数値目標の中にはですね、事務をする立場といたしましては非常にチャレンジングな数値目標を掲げていたりもします。ですので、今後5年間、この目標、一つの大きな目標の達成に向けて様々な切り口があるんだと思っておりますが、地域創生防災部だけではできないことがほとんどでございます。横の各部に御協力をいただくことがたくさんあって、旗印と言いますか、そういったところで今回作っております。具体的な施策については、現時点で言葉を持ち合わしておりませんが、この計画を旗印・御旗にして、局として市町の皆さんや住民の皆さんと共にやっていきたいと思ってございますので、引き続き、御支援をよろしくお願いいたします。

[局長]
　ありがとうございます。さっき事務局からもお話したみたいに、だいぶシンプルな形になっている分、いくつかの具体的な施策っていうのが束ねられてしまっているので、見えにくくなったところ、いや、見えにくくなったというか、それを大きな目標としてやるために、もっと細かく分割していくことが必要になってくるんだろうなと思います。それで、5年・10年経った時に、この方向性で進めていって良かったと思っていただけるようなものにならないと、数字は上がっているけれども、住民の皆さんに実感してもらえないというものでは意味がない、振興計画なので。そのあたりの足りないところは、どんどんおっしゃっていただいて、こういう視点を持っていて欲しいっていうのを、今日だけではなく気がついたらどんどん言っていただければ、さらに磨き上げられるのかなと思っております。ありがとうございます。
　では続きましてH委員さんよろしいですか。お願いします。

[H委員]
　地域商社と観光やってます、Hと申します。私からは2点お話させていただけたらなと思います。事前に共有いただいた資料でアンケート、徳島県内の高校生・大学生にアンケートをとっていただいている資料を拝見させていただいて。実際に20%近くの徳島県内の方が残りたいって言ってるっていうことに、私は結構正直びっくりというか。話してる感じだと、皆さん出ていきたいとか、そういう話よく聞くんですけど。実際アンケートを見てみると、「残りたい。」もしくは「出て行ってもまた帰ってきたい。」という方も20%近くいらっしゃって。私はもともと徳島の人間ではないんですけれども、やっぱりそういうリアルな声っていうのはすごく大事にしていかないといけないなっていうのを感じました。で、その中でやっぱり商業施設とか、観光・レジャーが欲しいなっていう意見があるんですが、私が県外から来た立場で思うのが、やっぱり皆さんアクティビティとかすごい盛り上げてくださってて、海沿いだとアクティビティとか川の方でもやってる方はいらっしゃいますが、やっぱり一番感じるのは日曜日にやってるお店が少なすぎる、っていう事をすごく感じております。私も宿をやっている身としては土曜日宿泊されて、日曜日チェックアウトされた後に阿南に滞在して欲しいけれども、どこもランチもやってない、朝ごはんもチェーン店コメダしかないっていうこの状況を、私が阿南にもし住んでいて、ずっと地元があんなんだったら、「いやいや日曜日まで勘弁してくれよ。

働きたくないよ。」って正直思うと思うんです。ただ、やっぱりニワトリ卵の話じゃないですが、日曜日はどうせ観光客が来ないから閉めてるっていうのが、飲食店の方とかとお話ししていると、そういう意見が多いんですけど。やっぱり開けてるから来るっていうのも私はあると思っているので。これから移住、別に地元の方じゃなくてもいいと思うんですけど、私のように、阿南市にも地域おこしの方ですごい若い方が、全国的にも若い方が多いし、定住する方も毎年一人はいらっしゃるっていう実績があって。そういう方たちと一緒に、一人ではどうしようもできないんですけど、コミュニティ組んで、やっぱり日曜日や祝日は観光客に来てもらうため、私たち自身も受入体制を整えないといけないなっていうのを思っております。

もう一点が先月、観光のお仕事で、関係人口関連のツアー、フィールドワークがありまして。県南では美波町の八幡神社さんと那賀町の人形浄瑠璃の方にお伺いしまして。やっぱり八幡神社の秋祭りはすごい集客力というか、私もお伺いしたことあるんですけれども、やっぱり阿波踊りに次ぐんじゃないかなっていうぐらい、集客があるお祭りだと思います。アンケートを取ると阿南のビジネスホテルまで来られている、っていうのを実際聞きまして。白い灯台のこととか、色々地元の方から復活を望む声を直接聞いております。美波町にできるだけ滞在して欲しいっていうのは、美波町の方の声だし、阿南の方からしたら阿南に来てくれたら、それはそれでいいんじゃないかという声もありまして、私は、美波町は美波町、阿南市は阿南市っていうのではなくって、せっかくこうやって県南の皆さんと関わらせていただいているので、もうちょっと横のつながりとかも持って広域連携を深めていければいいなっていうのを、この一ヶ月ではありますけど、いろんな人の声を聞いたり、調べたりして思いました。これから私たちも直接尽力していくように頑張っていきたいと思います。

[地域創生防災部]

ありがとうございます。観光振興って、それぞれ市町の皆さん方、阿南市であるとか美波町であるとか、市町村単位でいうと非常に限定的であると思っています。南部総合県民局の立場としては、管内には5市町ございますので管内という観点の中でどうやって振興していくかっていうことが大事だと思っています。組織としましてはDMOで一般社団法人「四国の右下観光局」というのがございまして、こちらは5市町をターゲットに、市町の立場よりは少し高いところの目線から、いろんな観光コンテンツの開発を進めているところでございます。ですので、そういったところとしっかり連携しながら、市町の職員、観光協会よりも少し目線の高いところでものを見ていく。で、もう少し大きなところで県全体というところで見ていくとか、それぞれの役割分担の中でしっかりと連携を進めていくことが大事だと思っています。引き続き、Hさんは観光の観点からそういう知見をお持ちですので、またいろいろ御指導いただければと思ってございます。ぜひ協力させてください。

[副局長]

観光のことでいろいろ御提言ありがとうございます。今、小津部長からもありましたように、DMOという組織があって、1市4町でしっかりと広域連携して域内を周遊できるように取組を進めているところでございます。これまで、海部郡3町で「よくばり体験」という教育旅行を推進しており、海・山・川の特徴を活かした50を超える体験型メニューを用意いたしまして、地域の魅力を皆様にしっかりとお伝えし、受け入れられるように、修学旅行生の誘致等に取り組んでいるところでございます。このメニューを、阿南市さんですとか那賀町さんですとか広げていって。この南部全域でそういった体験メニューが溢れてみんなが楽しめるようにしていきたいと考えています。そうすることにより、それぞれの市町に訪れていただきお金を落としていただいて、それで事業者の皆様がお金が儲かったなというような実感をどんどんしていただいて。そうすることでさっきお店が開いてないと、ありま

したけども、これだけ観光客が来てるんだったら、日曜日開けたら儲かるなとかですね。そういった好循環を生み出していけるように県も市町と一緒になってしっかりと取り組んでいきたいと思っております。外貨を稼いで地域内にお金落としてもらって皆に潤っていただくという。観光というのは地域振興の起爆剤。なかなか企業誘致とかまではまだ難しい。観光っていうのは本当にキーになると思いますので、しっかりと取り組んで参りたいと思います。引き続きよろしくお願いします。

［局長］
ありがとうございました。観光産業って観光だけの話ではなくて、その辺に関わる種々ほかの産業も含めての話になりますので、地域を活性化するっていうことは非常に有効になると思います。
それではI委員からお願いしてよろしいでしょうか。

［I委員］
Iでございます。どうぞよろしくお願いいたします。県南部の振興計画案資料4ですね。それを見ていただいて、10ページなんですけれども。水源のかん養や土砂災害の防備など森林の持つ公益的機能うんぬんとあって、「保安林の指定や治山施設の整備を推進します。」という文言がありますけれども。やはりその保安林だけを指定したのでは、これはまた一緒のことだろうと思います。やはり手入れがないと難しいかな思います。それと11ページの真ん中なんですけれども、南部圏域の豊かな自然ってありまして、認知度を向上させる必要があります。ちょっと漠然なんですけれども、認知度を向上させるためには何がいるのかといったら、やっぱり独自性が必要と思うんです。そういうところをお考えいただいた方がいいかなと思います。
私どもは林業をやっておりますが、小さいところが木材を売ってお金にして生活を立てるようなことは、ものすごく難しいんです。なので、40年ぐらい前から山に作業道を入れておりまして、いろんな植物の多様性というか、そういうふうなものもございますと。これ、去年に環境省から認定をいただいておりまして、多様な自然を森林を活かした観光に目を向けております。旅行会社さんとかではなくて、そういうふうにしたら山が大変なことになりますので、やはり目的を持った方と限定した人数ということで山に来ていただいて、先ほどからも阿南市に来ていただきたいというふうなお話があったんですが。私どものところは私どものところへ来ていただいて、地域で1泊2日でその山を楽しんでいただいておりますが、近場の宿泊施設でやることが地域の人にやっぱり役立つんじゃないかな。それぞれの立場があろうと思うので、そこは皆さん独自の視点を持ってやられたらいいんではないかなと思っております。
次に14ページ、担い手の件なんですけれども。小中高生や大学生を対象とした就業体験インターンシップの受け入れとありますが、これはだいぶ前からやられてると思います。どのくらいの効果があったのかということを知りたいです。
次に、最近では花粉症が話題になっておりまして、国は20%ほど切っちゃえという話なんですけれども、花粉が少ないというエリートツリー、それは花粉の量はゼロなんでしょうか。それから実生なんでしょうか、挿し木なんでしょうか、ということをお聞きしたいです。そしてこれはどのような用途に使われますかということと、年輪の幅はどうなのか、強度がどうなのかと。建築用材に使うのであれば、強度はいかがなものなんですかね、ということをお伺いしたいです。
最後に、林業もそうなんですけども、一次産業の農林水産のところはやっぱり後継者の確保がものすごく問題になっておりまして。他のところでもいろいろお話を聞いておりますと、次世代の人がなかなか参加してくれないと。そういうことをよく耳にしますので、次世代に伝えるためにはどういうふうにしたらいいかなということが問題ですね。なので、生物多様性にしても、林業で生物多様性っ

て言った時に、「いや、現場の人はあんまり関心がないでしょ。」っていう話が出てきました。どういうふうにすれば、防災とか水源かん養、それから山全体を守っていけるようなことができるのかということをね、早急にやらないと。漠然としたものでは、私はなかなか難しいかなと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

[農林水産部]

農林水産部長の伏谷と申します。I委員さんの方から非常に多くの御意見いただいております。まず最初におっしゃられた、保安林。これだけでいいのかっていうことですが、保安林はI委員さんも御承知の通り、森林法に基づき指定しておりまして、森林の持つ公益的機能を高度に発揮するために、伐採の制限であったり植栽の義務、それから土地の形状変更の規制等が定められております。厳正な管理によって現場を守っていこうというところでございます。水源かん養であったり、あるいは土砂崩れを防ぐ根本的な一つのやり方だと思っております。I委員さんがおっしゃられました生物多様性ですが、先日の「生物多様性フォーラム」にウェブで参加させていただきまして、I委員の御講演も改めて聴かせていただいたところでございます。生物多様性につきましては、一昨年の「COP15」で国際的な行動目標を立てております。国も国家戦略を策定して、県も生物多様性戦略を策定して、森林だけじゃなくて、あらゆる面で推進・実行しているところでございます。I委員が全国に抜きん出て実践されております作業道のつけ方であったり、針広混交林を長年にわたり非常に丁寧にアイデアを凝らして管理されている取組。まさに生物多様性を具現化しており、徳島県にI委員さんの山林があるということは非常に誇らしいことと思っております。もちろんスギ・ヒノキの針葉樹林は大木化しておりますので、皆伐という一つの手法を取りつつ、やはり山地の環境、標高であったり作業のしやすさなどいろんな違いがございますので、そこは使い分けて。I委員さんが実践されている素晴らしいやり方をどんなところでどういうふうに実践していけるのか、我々もしっかりと勉強させていただきながら進めて参りたいと考えておるところです。I委員から先ほど御紹介いただきました、生物多様性の自然共生サイト「OECM」に徳島県下で初めて認定されたということ。これはもう県としても非常に頼もしく思っております。全国から見に来るような、森林管理による生物多様性の保全を環境省に認定いただく。このモデルをこれから二番手・三番手が続くよう、いろんな分野で取り組んでいかなければならないと考えておるところでございます。

あと、この森林を活かした観光につきましても、オーバーツーリズムみたいに森へどんどん人が入ってきて、人は来たけど手入れしている森がダメになってしまう。それでは本末転倒でございますので。そこはやはりこの森の良さ、この自然の良さ、生物多様性を理解する多くの人々が、この地にやってきていただけるような工夫・配慮が必要なんではないかと考えておるところでございます。

次に担い手対策ですが、南部圏域振興計画の14ページ、「林業アカデミー」、「漁業アカデミー」などで、小中高生や大学生を対象に、いろんな体験やインターシップをやっているが、どのような成果が上がったのかということでございますが。数字で申し上げますと、13ページの一番下に農林水産業の新規就業者数のKPIを載させていただいてございます。2018年から2022年までの5年間で、農林水合わせて195名の新規就業者があったということでございます。これをですね、この計画の冒頭に記載しておりますが、今後、20年後には、管内の人口は半減するという状況、これなかなか避けて通れない状況なんですが、このような人口が減少する中でも今後5年間、これまで通り年間平均しますと農林水産業では約39名の新規就業者がおりますので、これを死守すると言いますか、着実に確保していき、2028年には、2018年からの累計としまして、430名を確保したいと考えているところでございます。

それとエリートツリーについて、実生なのか、挿し木なのか、強度はどんなものかという御質問につきましては、林業担当次長の方から説明させていただきます。

農林水産部で那賀担当の次長をしています、島村と申します。委員の方からスギの花粉症対策の関係で、国において、今後10年間にスギの人工林を全部で約2割程度減らすということで、伐採した分に花粉の少ないエリートツリー等を植栽するという施策を公表しているところです。質問にありましたエリートツリーにつきましては実生で、種で成長するものでございます。これとは別に少花粉のスギ苗というのがございまして。これは、全国から元々スギの花粉が通常のものに比べて1%程度しか花粉がつかないというスギ苗のクローンを選んでおりますので、当然、これは挿し木苗で増殖するようになります。

［局長］
ありがとうございました。それでは続きまして、J委員さん、お願いできますでしょうか。

［J委員］
いつもお世話になっております。私から、A委員そしてB委員がおっしゃっておりましたような、防災についてお伺いいたします。私も海陽町の宍喰で住んでおります。石川の能登半島の映像がもう毎日毎日テレビで放映されております。本当に悲惨な姿がまだ放映されております。そしてまた、東日本大震災からもう13年になります。私のところは海の近くでございます。そして日和佐までは迂回路ができておりますけれども、日和佐から宍喰の方までは一本道でございます。そして私の家から海陽町の役場までは6.6キロございます。もう波打ち際を走る道でございます。一つ災害が起きれば能登と同じような状況になると思っております。現在、芥附海部線が整備されております。開通するまでにもう数年はかかろうと思っております。また、宍喰の方で避難場所ができておりますけれども、いろいろな予算も関係ございましょうけれども、もう少しスピード感を持って進めていただきたいと、切に御要望を申し上げます。
そして農業についてでございますけれども、「きゅうりタウン」を発足をさせていただきまして、県、そして行政には本当にお世話になりまして、来年で約10年が来ようと思っております。コロナで4年間は活動できませんでしたけれども、コロナも第5類になりまして、今年の春から移住就農を頑張って、農業支援センターの方々、行政のお力を借りまして、これから移住就農をどんどん進めていかなければならないと思っています。私の地域も高齢者のリタイアが本当に増えております。今の生産力を維持していくには、外から人を呼ばなければ維持が難しいと思っております。その点も、大変御苦労なさると思いますけれども、お力をお貸しいただきまして、何とかして今の生産高を維持をしていかなければ、本当に大変と思っておりますので、御無理申しますけれども、ぜひとも御協力、各市町村の首長さんもおいでていただいておりますので、お願いをいたします。以上です。

［県土整備部］
すみません、今、J委員の方から防災の意見を頂きました。まずは、基本的には能登の方でも、道路がそんなに多くないという形の中でメイン幹線が止まってしまうっていうところがあったと思います。当然、南海トラフ等があった場合も南部の方でも同じような形になるのかなというようなところでございますけれども、今回の計画の方にも入れさせていただいておりますが、そうした中で先ほどお話もありました芥附海部でありますとか、195号、そうした強靭な道路のネットワークを作っていきたいということで、スピードだというお話もありましたけど着実に進めていきたいと。
それともう一つあるのが、小津部長の方からも話がありましたけど、やっぱり道路啓開。今ある道をどう啓開していくかっていうところを、能登の知見も入れまして県の方でもワーキングをして、そうしたものをさらにブラッシュアップしていきたいということで、ハード・ソフトの両面から今後も

対応を進めていきたいと思っておりますので、御理解をどうぞよろしくお願いします。以上でございます。

[農林水産部]

失礼いたします。農林水産部の伏谷でございます。J委員さんから「きゅうりタウン構想」の今後の展望。それと、農業者が高齢化していなくなって外からの人材確保がマストであるという御意見、今後どう展開していくのかという御意見を頂いたところでございます。これにつきましては、前回も私の考えを述べさせていただきましたが、これまで、県・農協・それと地元市町と共にですね、10年間かけて構築してきた「きゅうりタウン構想」のシステム、これをしっかり維持しつつ、今後人数が2分の1、4分の1と減っていく状況下でどうしていくべきかというのは、やはり外から人を入れる。しかし、そんな簡単にできるのかっていう部分。これにつきましては、県南の特に海部郡の地の利、強みであります海・山・川・水、そしてこの農業・林業・水産業。全てがそろったこの環境を望んでいる人・求める人っていうのは確実に国内外にいらっしゃいます。今日の農業新聞の記事で内閣府が実施した5,000名に対する世論調査で、5年前との比較でコロナを経て考え方がどう変わったかっていうアンケートなんですけど、「5年前と比べて農村に興味を持った。」、「あえて関係していきたいと思うかどうか。」という質問で、5,000人のうちの3割強が「農村への関心が高まった。」と回答しております。これはコロナを契機として、こういう風な兆候が見られるということが国の世論調査で現れてきております。こういった実際の潮流であったり人の田園回帰の流れっていうのは、間違いなく大きなものとなっておりますので、他県でもよく似たところはあるかもわかりませんが、この海部ならではの自然環境の強み、そして「きゅうりタウン構想」で培った人を呼び込むシステム、これをさらに発展させまして、南部圏域振興計画に謳わせていただいております「海部型の移住就農システム」、これはきゅうりに限らず、お米であったり野菜であったり果樹であったり、あらゆる農作物、農作業など、農業に関心のある人は誰でも来れるような仕組みを、ここで幅広に対応できる仕組みをぜひ一緒になって作っていきたいと考えております。そのキーになりますのは、この中でも手法として謳わせていただいておりますが「農業サービス事業体」。いわゆる人が減っても作業を請け合うことができる母体、これを作って。ここに外から入ってきた人が就業する。作業が足りない時はそこからの人を頼るっていう形で。共助をイメージとした母体をぜひ農協さん・役場さんと一緒に、それ以外の方々も含めまして、一緒になって、ぜひ具現化していきたいと考えておりますので、今後とも御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

[B委員]

Bです。今のところの話で言うと、まず住む場所が足りないと思うんです。私のメインの商売はスーパーマーケットの経営をしているんですけれども、なぜか僕のところに年間数十組の移住希望者が来るんです。「海陽町はすごく魅力的。」、「ここに来て農業やりたい。」、「漁業やりたい。」、「田舎暮らしをしたい。」、「自分で起業したい。」、様々な方がいらっしゃいます。僕も家探しって本業じゃないんですけれども、様々な方に御相談したりとか、地元NPOの方にも協力してもらったりとかするんですけれども、なかなか見つからないんです。家がもう崩壊寸前だとか、仏壇を置いてあって年に一回戻ってくるから貸せないんだとか。ましてやその海陽町のエリアって集合住宅があるわけでもないですし、そんな中で住みたい、何かここでしたいって言っても、まずその一歩目でくじけてしまって、去年それで成立して住んでくれたのは3組だけです。数十組来て3組です。で、もう今年に入ってからも、もうすでに6組僕のところに来てます。だけど、まだみなさん家が見つかってません。だから、いろんな政策があって人手不足だっていう現状は、現場の人間はリアルに感じてるんですよね。

じゃあそれを、どうしたら住んでもらえるのかって言ったら、まずは家がないと住めないと思うんです。そこの問題をまず解決した方がいいなというのはすごくリアルに感じます。いかがでしょうか？

[地域創生防災部]
　移住希望者の住宅の問題でございます。これ、私も同じような悩みをいろんな方からお聞かせいただいております。どうしたらいいんだろうかというようなことで、実はいろんな方といろいろお話するけれども、なかなかいい案が浮かんでいない。今、空き家バンクでありますとか一定のルール化はされてるんですけれども、B委員がおっしゃったみたいに、例えば年一回帰ってくるからそれは貸せないんだとかで。それが少し落ち着いて、もう年一回も帰らなくていいようになった頃には、もうその家がちょっと使いづらくなっている状態になってたりとか。そこらのマッチングが一番大きな課題だと思っております。これに対してどうするかについては、市町の皆さん、それから土地・住宅の持ち主の皆さんと、丁寧にお話していきながら進めていく必要があるんだろうと思っております。南部地域に移住されたいという方がいらっしゃるのに、その家の問題でそれが実現できないということは非常にもったいない話・残念な話と思いますので、一緒に知恵をお貸しいただければと思ってございます。どうぞよろしくお願いいたします。

[B委員]
　その件に関するところを、部会なのか評議会なのか分からないですけれども、それで考えましょうで終わっちゃうと。僕も地元の役場とかでもそういう話するんですけれども。僕が移住して丸々7年、状況は何も変わってなくて。やっぱりね相談しても変わらないんだったら、もう自分たちでどうにかするしかないっていうので、持ち主調べて交渉しに行ってとか、亡くなった方の息子さん見つけて交渉しに行ったりって、やっぱり自分らが仕事の合間を使って、そういうふうに動いてってなっているので。本当にやるんであれば、何かチームや体制を作ってやるっていうことをしたいので、明日にでも作ってください。お願いします。

[局長]
　ありがとうございます。移住の問題で、この空き家というか、住む所っていうのは、本当にたくさんの方からお話しいただいています。コミュニティの中に自分たちが思い描いている理想の移住者っていうのがあって。そういう方々と実際に来られる方のギャップっていうのが、お互いにあると思うんですね。田舎暮らしをしたいという方が人間関係の濃さっていうのをどういう風に考えるかっていうのもありますので。そのあたりが空き家を提供いただける方々も少し慎重になってるっていうのが現状なんだと。今、担当部長からもお答えしましたけれども、そこのところをもう少し掘り下げていかないと、今の空き家バンクの仕組みだけではなかなかいけない。我々も重々承知しておりますので、できるだけ早く、この問題のもっと根っこの部分は何なのかっていうところを、皆様方と共有できるように頑張りたいと思います。ありがとうございます。
　すみません。私の司会の不手際でだいぶ時間が押しておりますが、まだ引き続きお願いしたいと思います。K委員さん、よろしいですか？

[K委員]
　私は、文化芸術の事業を行っております。これといった何か解決できる問題ではなく、どこか目に見えないけれども、体の奥の方の芯のところに、ちょっと何か水を与えることができるような事業ができればいいかなと考えています。でも、多く話をお聞きしていると、防災とか観光とか少しずつ緩

く私たちの事業も繋がってるんだなってことを実感します。文化会館に集まってきている人たちを、「何かあればどうすればいいの？」ということと、それから、県外から来られる方もあるので、「交通をどうするの?」とか、「日曜日空いてないんですね。」とか言われたりということもよくありますので、皆さんのお話をいろいろ楽しく伺いました。で、時間がないということなんですけれども、前回のこの会議の後に私たちが行った事業を少しだけ紹介させてください。多分、皆さんほんわりとできると思います。三つ事業があったんですけども、三つとも子どもたちを中心にした事業でした。

一つは、小中高生をホールにお招きして演奏会を聴いていただく、プロの演奏を聴いていただくという事業。小中高生のためのインリーチ事業といいますか。前回2月にはサックス・サクソフォン8本の演奏会だったんですけども。感想文が返ってきて、「驚きました。すごく楽しくてびっくりしました。」っていう子だったんですけども、「僕も人を驚かせることができるような選手になりたい。」ってありました。きっとスポーツをしてるんだと思うんです、音楽ではなくて。音楽を聴いて違う分野にも何かモチベーションを持つことができるんだということで。それこそ、体の核のところに水が渡すことができたので、とってもその言葉が楽しく私にも受け止めることができました。

もう一つは、0歳から参加できる、こういう平土間で行う演奏会なんですけれども、子どものための音楽会で、本当に2歳の子がね、歩き盛りですね、歩きたくってしょうがないんです。で、演奏者の前を横切ったり扉を開けっ放しにしてますので。いつでもこう、わっと弾いたら、外へ出て聴いてもいいよということにしてます。で、外へも音楽が聞こえるようにします。ある日、ナウシカのある曲を演奏している時に子どもが歩いてたんですって。で、その姿がそのアニメを彷彿とさせて、「とっても嬉しい時間でした。」ってお母さんがおっしゃってくれました。ただ、その方もお母さんはきっと演奏会に来たかったんだろうけども、「子どもが小さいのでなかなか行けないなあ。」と思ってたところ、子どもと一緒に楽しむことができたんだと思います。

もう一つは、小学校の音楽室に演奏者を派遣するアウトリーチ事業、出前の音楽事業です。音楽室で行うんですけれども、これも本当に面白い事業で2003年ぐらいから始めております。「演奏会に一生行けない子どもたちも恐らくこの中にはいるんですよ。」って先生方に言われたことがありますが、ある時、私は子どもたちを後ろから見てるので、子どもたちの表情が分からないんですけれど、最後の曲で演奏者がピアノの前に集まっておいでという時に子どもの顔が見えたんですよ。こっちを向いたら、一人の男の子の顔がもう口をポカーンと開けて、目を閉じないと目がしばしばしてくるよ、と思うぐらい目を開いたまま聞いている子どもがいて。その子たちに音楽を、生の音楽を届けることができたのがとっても嬉しくって。そこから10何年、もう20年、出前事業だけは欠かさず本当に大変なんですけれども、欠かさず続けてきている事業です。そんな風に私たちは音楽、なかなか音楽とか芸術とか、違う委員さんばっかりなのでこういう話をさせてもらいました。だから、小中高生のためにインリーチ事業というのがいちばん最近の事業なんですけども、子どもたちをホールに招いてくる事業を行ってますので、今は阿南だけなんですけども、県南の方に広げていったり、また徳島市内でも始まりそうですので、支援の活動とかこういう事業がありますよっていうのを、こういう考え方がありますよっていうのを広げていくことができればいいなと思っております。以上です。

［地域創生防災部］

ありがとうございます。音楽を使ったまちづくり、地域づくりといった観点で、お話をお聞かせいただきました。少し私からの提案ですけれども、今、委員の皆さんにメールで「プラットフォーム」を作らせていただいております。それを活用して、例えば、皆さんそれぞれ専門の分野で「こんなイベントやりますよ。」とか「こんな取組やりますよ。」などあれば、この「プラットフォーム」で自由闊達に意見交換、委員さん同士でもぜひやっていただきたいなと思っております。そこで情報共有してい

ただくことで、阿南でやってることが海陽の皆さん、那賀の皆さんに伝わるとかですね、そういった効果があると思いますので。そんな使い方を御検討いただいて、使っていただけるとありがたいなと思っております。

[局長]
　ありがとうございます。ぜひそういう周知にも御活用いただいたら、それぞれの分野の発言力ある方々ですので、活かせるかなと思います。ありがとうございました。
　それではL委員さん、お願いします。

[L委員]
　いつもお世話になっております。私の方からはですね、皆さん、道路のお話がよく出ております。さっきもこの193号、国道です。私は「残酷」の「酷道」と言っておりますけれども。電光掲示板に「積雪のため全面通行止め」とずっと出とるんですね。12月の末から3月いっぱいまで、通行止めになっています。これだけ皆さん「道路は大事だよ。」と言っているのに、積雪がないときにはなぜ通してくれないんでしょうか。私の家から県庁まで、193号ルートを使うと、62.3キロですね、阿南回りでいきますと70キロ超えるんですね。ぜひこの国道193号、通れないときは仕方がないです。でも、雪、「積雪のため」って書いてありますから、積雪がないときには通してください。それをお願い申し上げまして、終わります。

[県土整備部]
　ただいまL委員の方から、国道193号の冬期の全面通行止めについて御意見を頂きました。この区間につきましては、これまでもお話をさせていただいておりますので、御存知と思いますが、山間部で標高が高くて積雪や凍結、斜面からの落石の危険や安全確保のためですね、冬期は通行止めということをさせていただいております。当然、安全確保を第一に検討していくというところでございますけれども、そうした状況を踏まえながら、できるだけ早く安全を確保した上でですね、解除ができる時期であれば解除していくことも検討しながら進めていきたいと考えてございます。以上でございます。

[L委員]
　巡視員さんがおいでるからね。巡視員の方が見て、これだったら通れるよっていうのも分かると思うんですがね。何のための巡視かなと思いましてね。ぜひ見ていただいて通れるときは通してください。お願いします。

[県土整備部]
　それにつきましては、繰り返しになりますけど、そうした状況をちゃんと踏まえた上で、安全を確保した上で解除については考えていきます。すみません。御理解のほどどうぞよろしくお願いします。

[局長]
　いろんな技術も進んできてますので、今までの発想ではなくて、新しい発想、これからの今後の話、今後については可能性を探っていきたいと思います。今までだったら「できません。」で終わってたと思うんですけども、そうならないよう我々でグリップしますので。
　ありがとうございます。それではM委員、お願いします。

[M委員]

よろしくお願いします。今日は地域交通の件についての意見です。今、交通弱者をどうするかというのは全国的な問題になっております。そのため、自家用有償旅客運送とかデマンドタクシーとかありますけど、私たちの地域では「御近所ドライブパートナー」という制度がすでに取り組まれています。令和3年に北岸の大井線のバスが廃止になりまして、その時に阿南市のモデル事業で一年間、このドライブパートナー制度を取り入れていただいて。今は地元のNPOが中心になって使っておりますが、この制度は月に4回しか使えない。それと、バス路線沿いに住む人は使えないんです。例えば、養護学校からずっと中学校までの間、バス停が4箇所ありますけど、そこのバス停に行くまで2キロとか4キロとかある方がたくさんいて。あと免許証を返納した方とかで、一人暮らしの方で。町のちょっと隣の人がこの制度が使えている一方で使えてない人がいて、たいへん困っておりますので、この制度の見直しを考えていただきたいなと思います。地域支援事業交付金と介護保険とで賄われているということを聞いてますけど、町を挟んで隣の人は使えているのに私は使えないよっていうような方がおりますので、御検討いただきたいと思いました。

それと毎回のお願いですけども、この県道阿南小松島線の主要幹線道路の整備促進っていうのを引き続いてお願いしたいと思います。徳島市から那賀町に抜けるのは黒河バイパスを通って行くというのは、横でL委員が「毎回それ言うなぁ。」っていつも言われるんですけども、それぐらい私たちの地域にとっては本当に必要なことだと思ってます。もう「命の道・経済の道・観光の道」であると思います。遍路道、太龍寺につながる遍路道でもございます。先ほど言ったように、この太龍寺は阿南市加茂町なんです、そして道の駅わじきは那賀町中山なんです。那賀町中山と阿南市の阿瀬比町はどこが境なのかというぐらい、どっちが阿南市か那賀町か分からないぐらいなので。この阿南駅から日亜の前を通って道の駅わじきまで通れるような定期運行路線のバスがあれば、先ほど言った生活で困っている交通弱者の方や観光にも活用できる大事な道になるかと思います。大型バスやトラックでもどんどん通れるような道をお願いしたいと思います。

次に、全国で小・中学校の統合の話が持ちきりでございます。あと数年もすると全国で廃校がたくさん出てくるのではと思います。すでにこの県南地区にも廃校になってそのままになっている学校がいくつかあるかと思います。私の地域にも大井小学校というのがあるんですけども、今、年に数回イベントで使ってますが、全国に廃校がたくさん増える前にやっぱり地元で何かしたいなっていうような声が上がっております。先ほどB委員さんが「家がない。」とおっしゃっておりましたし、そういう移住の人の住まいとか、あと、テントを貸し出して四国八十八箇所を回っている人に貸し出すとか、いろんな声が出ておりますので、地元と官が一緒になってこの県南にある廃校のこれからのことを考えたりするのが、今の時期ではないかと思っております。以上です。

[県土整備部]

今、阿南小松島線の整備というところでお話を頂きましたけれども、これにつきましては、今回の方針の方でも主要幹線というところにあるというところでございます。当然、阿南小松島線も含めていわゆる南部の道路ネットワークについて整備を進めさせていただきたいという考えでございます。これからも御理解・御協力をよろしくお願いします。

[地域創生防災部]

御意見ありがとうございます。まずドライブパートナー制度、これの運用のお話だったと思います。それともう一点が、廃校の利活用についての話だと思います。いずれも、個別の案件で勉強不足のところがあるんですが、地域がその施設について制度を使い、こうしたら使いやすくなるとか、例えば

この学校をこう利用したいとかのお話になると思いますので、それを市町の皆さんと共にですね、我々も一緒になって考えて参りたいと思います。また、地元の御協力が必要不可欠になろうかと思いますが、M委員の地元はそういうところもしっかりやられている地域でございますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

[局長]
ありがとうございました。それではN委員、お願いします。

[N委員]
よろしくお願いします。私の方からは二点、意見を述べさせてください。一つは、サテライトオフィス。弊社も関わってます、サテライトオフィス誘致の件です。資料1の変更のところにあるんですけど、すみません。時間のない中、すごく意見を汲み取っていただいて変更していただいたのかなというのはすごく分かりました、ありがとうございます。もう一つ要素として加えて欲しいところを御説明したいんですけど、サテライトオフィス誘致の目的って地域外、都市部の技術を持った企業さんとかやる気を持った人を地域に呼び込んでいろんなチャレンジをしてもらうことで、まず地域が盛り上がる、で、それを見て地域内の人もどんどんチャレンジを加速させるようなことが目的だと思っているので、変更前に入れていただいていた「関係人口の創出を図ります。」みたいなポイントは、やっぱり外さず、入れて欲しいかなと思います。よろしくお願いします。
もう一つは全体的なところになるんですけど、こういった政策を作るに当たって、様々な分野の現状を把握した上で今後どうしていくかというのがすごく大事だと思います。小津部長からもあったんですけど「メーリングリスト」、いろんな情報共有に使ってくださいみたいなのをおっしゃっていただいてて、本当にそういうところが大事なんだろうなと思います。特に坂東局長なんかはかなり現場に足を運んでいただいて、現状を見ていただいているのかなっていうのをすごく感じてまして、誰ができてないとかじゃないんですけど、県と私たちも一緒になって情報共有する必要があるなと思っているので、我々も委員として、住民として、県民としてやってることをスワップ、情報を共有することを頑張るので、現場に足を運んでいただきたいな思います。お願いします。

[地域創生防災部]
御意見ありがとうございます。資料１の④番ですね、関係人口の創出。ここのところ前後のつなぎの関係で取ってしまったので、どんな形で入るか、もう一度工夫して「関係人口」という言葉を入れるよう調整させていただきます。あと、行政の皆さんは地元に入っていろんなものを見てくれ、というお話だったと思います。我々もできるだけ地元の行事・イベントなどにも参加したいと思っておりますので、先ほどのプラットフォームの話も行政と委員の皆さんが情報共有するという一つの目的があるんですが、ぜひ委員の皆さん同士の情報共有の場にもなればいいのかなと思っています。ここのメンバーの皆さんから情報共有があることによって、地域が細い線かもしれませんが一つにつながることもあると思いますので、そういった「プラットフォーム」、行政としてはあまり今まで取り組んでないことだと思います。モデル的にも積極的に使っていただいて、情報共有していただく。その中で、我々もこの委員さんがこんなお話してるんだと見えることが非常に心強いですので、ぜひそのような使い方をお願いできたらと思います。

[局長]
　ありがとうございました。ぜひ「プラットフォーム」の活用について御検討いただければと思います。よろしくお願いします。B委員どうぞ。

[B委員]
　前回から僕、初めて参加させていただきまして、この会議自体が徳島県で最も重要な会議ということで、地域の代表メンバーが集まって話をすると。前回お話にさせていただいたんですけれども、一人3分の中で意見交換は無理があるんじゃないかと。その後、長時間お時間いただいていろいろ思いなどをお話をさせていただいて、今回の計画案の「3.計画の進捗管理について」を入れていただいた経緯があります。私の率直な意見としては、やり方だったりとか、考え方に問題があるんじゃないかなと思っていて。僕が初めて参加して3分の意見を言いました、次もう一回会議やります、それを受けて計画が決まります、と。それを聞いた時に僕は夜も寝れなかったんですよ。「そんなのあり?」みたいな。それで、「民間と一緒に考えました。」っていうのは薄いなって思いまして。前回の会議がある前までに何度も話す機会だったりとか、じゃあこういう風に考えようかとか、この案の考え方だったりとか、進め方だったりとか、いろいろもっと話せるはずなのになと。だけど書類が送られてきて、何月何日です。会議に参加して、その場で初めて3分で意見を述べてください。「なんだこれ?」って。本当に驚いちゃいまして。で、それだとやっぱり変えられないなと思ったんです。この会議でも徳島未来創生総合計画を元に南部の計画を決めると。そこの文章の中にもその現場主義という言葉だったりとか。その前提に、今は時代の転換期で本当に変えていくべきだ、というなかで、まず根本的に一個一個の内容よりもその行動だったりとか組み方だったりとか、そういったことを変えていかないと、議題が変わっているだけで変わらないのではないかという不安と危機感を持っています。なので、ここに「進化する計画」と入った通り、常に話し合える「メーリングリスト」も素晴らしい取組だと思います。でも、立ち上がって二ヶ月経ってますが、多分、今のところほとんどの人が活用されてないんですよ。一通だけ、講演会のお知らせがあっただけで。それに対してのリアクションだったりとか、フィードバックもないですし。「メーリングリスト」があります、って言っても活用されないと思います。なので、先ほど言った考えましょうとか、こうやりましょうっていうことも具体的にこの会議が終わったら、いつそれを打ち合わせして、どういう風に、どうやったら本当に現場まで落ちるか、そんなことを考えたりしていくことが、本当に必要かなって思っています。多分、その市民レベルでも町があって県があって国があってみたいな。でその中で法令や憲法があって。もっと言うと、日米地位協定があってとか。そういった中での自分たちの暮らしだけど、どうやってその仕組みの中で、自立していくかとか。自分たちの周りの状況が大変なことになっても、自分たちは自立して、さっき災害の話でも県南地域は災害にあった時は、まずは自分たちで生き抜いて、みたいな話があったと思うんですけれども。じゃあ県としてとか、四国としてって話だと思うんですよ。僕、本当に今住んでるところがものすごい好きで愛していて本当に守り続けたいですし。こうやって皆さんとアイデア交換して、大人はカンニングダメって言われないんで、いいことは見せ合って。
　あと、すごく足りないなと思ったのが、失敗したことだったりとか、失敗例が全然ないなこの会議には、と思ったんです。僕の人生、自分自身もそうなんですけど成功したことよりも失敗したことから学んだり、教訓を得ることって大きいと思うんです。なので、国のやったこと、県のやったこと、いろんな企業組織やったことの中で、こういう失敗があった。この失敗は二度と繰り返されないようにしよう、と。そこって一番の共感であるのかなって。うちも会社の役員会で話す時に、まずは失敗したことを共有するんですよ。理想や数字や目標を掲げるのは、それはもう絶対、組織・チームの当たり前だと思うんです。だけどその過去を振り返ってみて。長い目でデータを取ったりすると思うん

ですけども、その過去を振り返った中で、何が失敗だったりとか、何が改善すべき点だったのかっていうところを、その辺をもっと話し合って、前向きに本気で地域づくりだったりとか、チーム作りっていうのをしていきたいので色々と力を貸してください。お願いします。

[局長]

ありがとうございました。確かに一回3分で、しかも年2回ぐらいしかお会いしないという形では深められないな、と。で、深められない中で今回の地域振興計画。今まで経験したことのないような人口減少が都会の方でもいろいろ歪みというか、問題として出てきてますよね。単なる人手不足というのではなくて、これから減っていくという中で、どういうふうにしていくか。今までと違うアプローチをしたり、技術もどんどん進んできていますから、それらをどうやって使って、埋められるものは埋めればいいと思うんですけど、ただ埋めるっていう考え方そのものが、今までの右肩上がりの中での話になりますので、縮小していく中で、どういう風にするか。例えば移住の話もそうですけど、移住してきた方がどうやって定着をしたのか、そこの中で循環、持続可能なものにしていくのかというような話は、移住者の方だけの話ではなくて、もともと住んでる方も含めての話になりますので、振興計画という名前をつけているのは、そのあたりですね。新しい発想っていうのをどんどん取り込んでいかないといけない。多分、ここからの10年っていうのは、ものすごく人口減少っていうのが、日本全体もそうですし、南部という地域は特に顕著に出てくるところだと思いますので、頻度も含めてですね、「メーリングリスト」もそうですが、頻度とか意見のいただき方っていうのも含めて、更に深掘りしていきたいと思います。どうもありがとうございます。

それではですね。まだまだ皆さん、言い足りないところもおありだと思いますが、皆様からいただいた意見を踏まえまして、修正の箇所もあるんだと思いますけれども、それも踏まえて管内の市町の皆様方からも御発言をお願いできればと思います。では、岩佐阿南市長様お願いします。

[岩佐阿南市長]

阿南市長の岩佐でございます。前回の会議は別の用もありまして欠席でしたが、今日皆さんの御意見もいただきました。行政として、市民の皆さんの命を預かる者として、今回の能登の地震をうけて、これから起こる南海地震への備えというのがまず一番かと思います。今日御意見にもありましたけれども、市としても頑張って参りますが、いろいろ予算面等で県の方にもお願いをしなければいけないと思っております。命を助けること、また助かる命をしっかりと助けることが必要だと思ってます。先ほど御意見が出た中でも、やはり避難所の冷暖房を含めたQOLを上げていくことが重要であると考えております。また、県も災害時のトイレの検討をされておられますが、阿南市においても先日御意見もあったところですし、また、水道の耐震化についても15%前後しかできておりませんので、これも進めていかなければならないと思っておりますが、一番は、様々な支援策がありますが、さらに進めやすいような形で県の方にも御支援をいただけたらと願っております。また、県南において一番重要な高規格道路の南進に関して、我々首長としてしっかりと要望活動を行っていきますが、用地買収等を含めて県のさらなる力というのが必要だと思っております。

最後に、地域公共交通に関しても御意見が出ました。阿南市として取り組んでいるところでもありますが、いろいろな制度の縦割りの部分があったり、また既存の公共交通とも被らないような配慮が必要であったり、そういった課題にも県のお力を貸していただき解決をして、地元の皆さんの生活を守っていきたいと思います。それと、インバウンドを含め県外や海外の人が来て、二次交通として使えるためにも、そういった公共交通・二次交通の確保ということをしっかりと進めたいと思っておりますので、県のお力を貸していただけますようお願いいたします。

［局長］
　ありがとうございました。それでは続きまして、橋本那賀町長さん。

［橋本那賀町長］
　お世話になっております。那賀町の橋本でございます。14名の委員の方からいろんな意見が出て参考になった次第でございます。那賀町でも議会一般質問、ちょうど今日来ていただいている14人と同じ数なんですね。3月の一般質問でそのうち10人からいただきました。そのうちの半数ぐらいの方が、やはり防災ということで、那賀町は本当に広い、淡路島や琵琶湖より広い面積を持っております。その中をどうやって守っていくかっていうのは非常に課題だと思っておりまして。1月にああいう地震があって、東日本が10年ぐらい前にあって、地震があったりすると、気をつけようとなるのですけど、日本人は熱しやすく若干冷めやすいということで、忘れちゃうようなところもあるので、行政として情報発信や情報共有をしっかりと継続してやる必要があると思っております
　そういった中で町の方として、まず避難所なんですけども、一番大きな集落になる鷲敷で今体育館を作っており、3月末ぐらいにできる予定ですが、ここの冷暖房をプロパンでやろうと。電気がもし止まっても、家庭用のプロパンを何十本も置くと、電気が止まっても大丈夫なんじゃないかなということを言い始めているのと、再生可能エネルギーですね。水力だったり、木質バイオマス等がどうにか町内でできないかなということを考えております。そういったことも含めてしっかり準備していきたいと思っております。
　また、道の件について阿南市長さんからもいただいたんですけど、国に対する要望を那賀町としても一緒に行かせていただいてますが、22ページの図面ですね。南部自動車道だったり高規格だったりの図面があるんですけど、その道は那賀町は通らないんです。でも一緒に行って、そこにつながる道をしっかりと役割分担しながら作っていく、強靭化していくということが大事なんだろうなと思っております。だから国に行った時には、「通らないけど来ましたよ。」って言って。ちゃんと国の人にPRしながら、「やっぱり道というのは重要なんだよ。」というのをしっかりアピールをして。
　公共交通もそうなんですけど、先ほどM委員から大龍寺の話が出たんですけど、鷲敷の方でもロープウェイがある関係で外国の方が1時間も2時間もバスを待っている。それって来る人が減るよねっていう話をずっとしてて、どうにかできないかなという話をさせていただいております。そういった中で、先ほど委員の中にもありましたけど、市町が一番住民の方に近いところにいて、県があって国があって、それぞれの役割分担でその役割をしっかりと果たしていって、どれだけ早くいろんなことを整理していくかっていうことを重視しながら取り組んで参りたいと思いますので、今後ともいろいろ御意見のほどよろしくお願いいたします。

［局長］
　ありがとうございました。続きまして枡富牟岐町長。

［枡富牟岐町長］
　牟岐町長の枡富でございます。よろしくお願いいたします。今日、各委員さんからいただきました御意見、本当に牟岐町にも当てはまることがたくさんございました。防災士から移動式の冷暖房など、今も持っていませんので。他、たくさんの方からいただいた御意見を今後の町づくりに活かして参りたいと思っております。住居の件についても牟岐町も同じ思いでございます。ありがとうございまし

た。そこで一つ徳島県さんに御要望させていただきたいんですが、現在、牟岐町では国土強靭化地域計画の見直しをしておりまして、その委員さんに小津地域創生防災部長さんに就任していただいておりまして、大変お世話になっております。本当にありがとうございます。牟岐町では令和6年4月1日から防災の専門家として危機管理監を任用することとなっております。後藤田知事さんからも言われておりました、「事前防災計画を早く作ってくれ。」ということでございましたので、危機管理監が取り組んでくれることとなっておりますので、遅くなりましたが策定していきたいと思っております。それに伴いまして牟岐町津波避難計画や津波ハザードマップの見直し等、関連した計画の見直しがたくさん出てきますので、徳島県さんには今後とも御指導・御支援、そして御助言等をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

[局長]
ありがとうございました。
それでは海陽町行革政策課の岩佐主幹、よろしくお願いします。

[岩佐海陽町行革政策課主幹]
失礼します。海陽町行革政策課の岩佐でございます。本日、町議会開会中のため代理で失礼いたします。本日委員の皆様から御意見たくさん聞かせていただきまして、本町の町づくりの中でも課題として取組が必要なことばかりだな、というふうに感じております。本町におきましても、今回の計画の「目指すべき将来像」にありますように、人口減少が進むことで不安・課題など抱えながらも、やはり現在お住まいの住民の方がずっと安心して住み続けられるようにっていうことを、まず一番に。また子どもたちが進学・就職などで都会に一旦出て行くことがあっても、将来は海陽町に戻ってきたいなっていうふうに思ってもらえるような地域づくり。それから、そのためには持続可能にできるような町づくりということで、地域外の方にもいろいろ応援していただいて観光や交流、そして移住につながっていけるような。まずは町に関心を持っていただいて、選んでいただけるような魅力ある町づくりに取組たいと思っておりますので、引き続き御支援・御協力をよろしくお願いいたします。

[局長]
ありがとうございました。それでは最後に志田副知事お願いいたします。

[志田副知事]
副知事の志田でございます。本日はそれぞれの分野で活動されている皆さんから貴重な御提言をいただいて、本当にありがとうございます。皆さんそれぞれ、実際に生活あるいはいろんな活動されていて、感じておられることは、まだこれからの現役世代の将来を考えた時に不安なことを聞かせていただいたと思っております。いろんな意見をいただいたんですけども、まず最初に出ました能動半島地震受けての防災対策の関連なんですけども、A委員からもあった「1.5次避難所」の話。災害への備えっていうのは、常にしていっているんですけども、やっぱり災害が起こる度に新しい課題が出てきまして、この「1.5次避難所」もまさに新しく出てきた概念です。正直申し上げまして「1.5次避難所」、県庁の中でこれ危機管理部がやるのか保健福祉部がやるのか、今、議論しているところでございまして。ただ、当然、市町の方と一緒にやっていく課題でもありますので、早急に対応、進めていって、どこがどういう形でやっていくのかっていうのは、早速詰めていきたいと思ってます。
あと、この前、西部の方でもこういった振興計画の会議があったんですけど、西部の方でも直下型地震とか起こった時には陸路は無理だと。空路しかないんだから、具体的に災害が起こった時に孤立

集落がここだろうと。ここに対してどのように空路による輸送をするんだと、人もですね。その訓練をして欲しいと。で、その訓練をしておけば、何か起こった時にも例えば、2日、3日頑張っておればそのうち来るというのが分かるから、安心して何かあっても数日間耐えることもできるとか。そういう具体的なお話もあって。それは、この南部の方でもやはり空路による物的・人的支援っていうものを考えておかないといけないだろうなと思います。ただやはり、そうは言ってもメインは道路の話なので。そこはJ委員からもありましたけれども。特に南部ですね、幹線道路あるいは道路ネットワークの部分については能登半島地震を受けた時に、同じような状況が南部圏域でも起こると想定されますので、道路を始めるとする基盤整備については、今まで以上に力を注ぎたいと思っています。

それから、万博との関連で県南にどう人を呼び込んでいけるのかという話もございましたけれども、観光誘客については前からの課題ですけれど、やはり南部の観光誘客については西部と比べると強い資源というか、継続的に呼び込めるところがないので、魅力的な資源はあるんだけども、やっぱり地理的に散らばっているというか、スポットが分かれているとか。あるいは先ほどもお話ありました、いろんな楽しいイベント、集客力のあるイベントもあるんだけれども、それも、年に何回かとかですね。継続的になかなか呼び込めないところがやっぱり弱みとなっているので、そこの部分についてはやはり先ほど御提言もありましたけども、エリアでカバーしていくというところですね。そこはやっぱりどうしても考えなきゃいけないんだろうなと思っています。今までも考えてきましたけども、さらに強化していくんで。そのために、この前も美波町議会の議長さんと話してたんですけども、日和佐だけとってもそういう部分がありますので、その辺どうするのかですね。サテライトオフィスであわえさんもご参加されてますけども、そういうサテライトオフィスの方とか移住者の方とか、もっと外から見た形で、その辺のエリアカバーをどうしていったらいいのかというアイデアを募るような場の設定とかもして、そういうところにもっと違う視点で考えていただく機会を設けていかないと、なかなか打開できないかなというような話をしていたところでございます。

それと、B委員からありました。住居の問題です。先ほどお話がありましたけども、現実的には貸して欲しい家は貸してくれない。なんらかの理由で。まだ何回か使うとかですね。で、貸しますよっていうところは使えないっていうことで。というところからなかなか脱却できない状況になってますので。これも先ほどおっしゃいましたけども、もう少し具体的に踏み込んだ形で個人の住宅もありますけども廃校の話がございました。まだ空いてる公営住宅・教員住宅、そういうものもいろんなもの使えるものは何かというのを総点検しながら踏み込んだ対応をしていきたいなと思いますし、できればやっぱり南部圏域でそういうモデル事例を見出していけるようなことができたらいいなと思います。

あといろいろお話もいただいたんですけども、全体の大きな話として、この計画は南部総合県民局が主体となって皆さんの御意見いただきながら作っている計画ですけども、これを市町の方々と共有するのは当然なんですけども、それぞれ市民団体の方々にも知っていただくことが重要です。ただやはり、こういうのは作りましたというだけではなかなか浸透していかないので、目標を持って自分たちはこのうち何をするんだというところをはっきりさせて。若者の意見を取り入れたとか、いろんな団体と連携してという話が出てくるんですけど、それだけだと具体化が遅れていくので、若者というのはどこの若者にやってもらうんだとか、団体というのはどこの団体に担ってもらうんだとか、自分たちの役割とこの計画の進め方を考えていただかないと絵に描いた餅になってしまう可能性が危惧されますので。今後はこの計画の周知と合わせて、この部分はあなたのとこに任せるよと、その中で議論していただく。サテライトオフィスの方とか、いろんな若者の方、あるいは様々な活動されている団体もあります。そういう方々からこの計画について意見を聞いて、ここをお願いしたいというようなことを協議する場を作って、今回の計画をより実効性のあるものにしていきたいと思っております

ので、これからもいろいろ御提言をいただけたらと思います。今日はありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

［局長］

ありがとうございました。それでは皆様、本日は長時間にわたり貴重な御意見を伺いまして、本当にありがとうございます。まだまだ言い足りないところ。それから、会の運営そのものですね。「もっと深掘りができる形に見直せないか。」っていう御意見をさせていただきました。この辺り事務局総出で来年度以降につなげていきたいと考えております。どうもありがとうございます。計画の修正につきましても、2回にわたり御議論をいただきました南部圏域振興計画、こちらにつきましては皆様方の意見を踏まえまして、年度内には県のホームページで公表したいと考えておりますが、その修正案につきましては議長一任ということで御了解いただければと考えております。よろしくお願いします。今後も進化する計画として、この中身まだまだベクトルが示されたぐらいで具体の細かいところは、もっと細分化していかないと進まないと思いますので、そのあたりについて皆様方からお知恵をいただきながら、毎年度見直しを図って参りたいと考えております。引き続きよろしくお願いいたします。それでは以上をもちまして。令和5年度第2回徳島県南部地域政策総合会議を閉会させていただきます。本日はどうもありがとうございました。